

.....思い込んだ私

高校に入った頃の私は「数学の教科書には、そこまでに習ってきた数学の内容がすべて書かれている」と思ってこの教科に取り組んでいました。

「数学の教科書って、そういう性質のものなんじゃない？」くらいの穏やかな思い込みではなく「そうじゃないと、私、困るのよ！」というような一方的、かつ、絶対的なところのある思い込みでした。

どうしてこんなことをしゃにむに思い込んだのでしょうか。

そもそも数学の教科書が、「これから私は、君が学ぼうとする数学という教科の内容について、始めの一行から、何もかも包み隠さずに説明してあげるよ」などと約束してくれたことなんて一度もなかったのですから。

こうした思い込みのために、楽しかるべき私の人生には、ちょっとした暗雲が垂れ込めることがしばしばありました。

というのも私は、自分が算数数学の学習に行き詰まるたびに「数学が分からないのは、私の『頭が悪い』せいに違いない」という、どう見ても前向きとはいえない考えにとりつかれることが多かったからです。

.....風穴があいた

ところが、この私の思い込みに、一つ、風穴のようなものがあく

事件が起こりました。

高校に入って、二ヶ月もたたない頃のこと、私は定期試験で自分でもぎよっとするような悪い点を取ってしまったのです。

悪い点を取った理由を自分なりに分析した結果、私は自分が「小中学校を通じて学んできた『数の全体』を、これからは、一本の『直線』と同じものであるとみなしますよ」という考え方を、腹のそこから理解していなかったがゆえに、出題された問題が解けなかったのではないかという結論に達しました。

それで私は猛然と、今現在習っている高校の数学の教科書から、過去三年間にわたる中学校の数学の教科書を読み直し始めたのです。

そうして、私はまもなく「数と直線とを同じものとみなす」という考えが、高校の教科書のどこにどう書かれているかを発見しました。

それを発見した時の私の感想は、正直言って「！」（理解しがたい！）

こういう重要な考え方を、高校の数学の教科書はこんな風に説明しているのか。

こんな風にしか、説明していないのか。

これじゃ、まるで、生徒（＝私）を、鼻の先であしらっているようじゃないの。

数学の教科書に対する全幅の信頼は、一瞬のうちに崩れ去り、にわかになんて数学の教科書に疑いの目を向けることになったのです。

3つのモノクル (片めがね)

それから私はずっと、数学の教科書を相手にして、数学を勉強することになります。

いや、その時の定期試験での失敗を境にして、さらに本腰を入れて、この教科と取り組むことになったのです。

しかし「数学の教科書は必ずしも、そこまでに学んできた数学の内容について、すべてを物語っているわけではないのかもしれない」ということに気づいたのですから、数学の教科書に向かう私の態度もおのずと変わってきます。

つまり私は、以後、大いなる疑いの目を持って数学の教科書と付き合うことになったのです。

今から考えると、この疑いの目は、三種類の異なる目からなっていたような気がします。

私はひそかに、この3つの目を「3つのモノクル (片めがね)」と名づけていました。

「片めがね (モノクル)」って皆さん、ご存知でしょうか。

昔々の写真に出てくる紳士や老婦人などが持っている、1つの玉に、取っ手が付いているめがねです。

どうして2つの玉を持つ、普通のめがねにしなかったかという、やっぱり初めは自分の獲得した目に自信がなかったからではないかと思えます。

その当時の私は、まだ十六歳にもならない少女でしたし、数学の

教科書というものは、それなりの権威を持って、私の前に立ちはいかっているような気がしたからです。

よく考えてみると、片めがねをかけていないもう一方の目では、私は相変わらず、数学の教科書を、およそ人間の使う文字で書かれた、他のどんな書物よりも信用したいというような、純な気持ちを抱き続けていたのだとも言えるかもしれません。

ともあれ、この3つのめがねの違いについて、少々詳しく説明すると、

モノクル I

数学の教科書が、数学のある部分の内容を説明できないのは、数学という学問の本質にかかわる理由で、これができないからである。

モノクル II

数学の教科書は、現場の数学の先生の説明に任せるか、生徒本人に時間を与え、考えさせる目的があつて、自身の伝えたい内容をあえて細かく説明しない。

モノクル III

数学の教科書は、数学の教科書らしい気取りから、数学の内容を詳しく説明しない。つまり教科書が、「スカしてる」「不親切だ」「サービス精神に欠ける」ってことです。

.....このめがね、貸します

私はその後もたびたび「数学が分からない」という事態に直面しました。

しかし上に書いた「3つのモノクル（片めがね）」を当てて見直してみると、その解決方法が何とはなしに分かってきたり、その場では解決方法が分からないにしても、その部分は当面、先送りして、練習問題などに取り組んだほうがよいのではないかなどということに自分で気がつくようになりました。

少なくとも私は、その後「数学の、この部分が私に分からないのは、私の『頭が悪い』せいに違いない」と自分自身を追い詰めることが少なくなったのです。

そこで私は、この3つの片めがね（モノクル）を、読者の皆さんにもお貸ししたらどうか、と思いつきました。

『数』の全体を『直線』とみなす」という考え方は、どのモノクルで？

そうそう、さっそく、私が最初に「理解しがたい」と思った教科書の内容が、上の3つのモノクルのどれに当てはまるか、申し上げておこななくてははいけませんね。

さっき述べた「これからは、これまで扱ってきた『数』の全体を一本の『直線』とみなす」という考え方が私に分からなかったのは、上の3つのめがねのどれに当てはまる事情からだったのでしょうか。

悪い点数のテストが返されて感情的になってもいた、私のひが目からすると「モノクルⅢ」？

入学したばかりの高校の数学の先生にまだなじめなかった、私の目からすると「モノクルⅡ」？

いいえ、いいえ、実はこれは間違いなく「モノクルⅠ」に該当する項目だったのです。

数学という教科の名誉にかけて、私はそう思います。

だけど、なぜそう言えるのか、これをこの場で説明することは、そう簡単ではありません。

ここに「モノクルⅠ」の事情からだ、私が判断した根拠の一つがあるのですから。

しかし、「数を直線とみなす」このことを深く理解すると高校数学の多くの部分が分かりやすくなることは確かだったのです。